

明日へ向けてのアピール (29)

輝けろう学校！特別支援教育 10 年 新たなるスタート

特別支援教育制度が 10 年になる節目となる討論集会を、ここさくらんぼ日本一・山形において開催することができました。全国から集まった 251 名の参加者が、「輝け未来へ 教育と福祉を考えよう！」をテーマに、パネルディスカッション、分科会、入門講座、小中高生企画に参加し、学習、討論を行いました。

開会式では、山形県知事から山形県手話言語条例が今年 3 月に制定されたことにも触れられ、聾学校に対しての力強いエールの言葉をいただきました。

パネルディスカッションでは、「手話言語と人工内耳」について全日本ろうあ連盟の見解が説明され、人工内耳を装用しても手話が必要であり、人工内耳を含むすべての子どもたちに支援が必要であることが話されました。

分科会の「教育現場での『授業づくり・コミュニケーションづくり』の工夫」では、地元を中心にした発表をもとに教職員、当事者、保護者らから多面的な話し合いがなされ多くの示唆を得ることができました。「早期発見による相談支援システムのあり方」では、早期からの手話環境の整備など学校だけの範囲にとどまらず子どもや保護者をサポートする制度の必要性を改めて認識することができました。「放課後等デイサービスの設立と運営」では、聞こえない・聞こえにくい子どもたちが生き生きできる居場所づくりへの参加者の熱い想いが交わされると共に、実施に関わるさまざまなノウハウも共有することができました。入門講座では、ろう教育の歴史や手話言語法について学びを深めることができました。

今回の集会で改めて感じたのは、教職員だけではなく、当事者や保護者、手話関係者などさまざまな立場の方が集まって、多岐にわたる研修、意見交換ができる、ろう教育を考える全国討論集会ならではの大きな意義と役割でした。

また、教職員が手話を学ぶ研修の充実をはじめ、制度の整備に取り組む必要性を改めて認識しました。さらに聾学校の範囲だけではなく、聾学校を取り巻く地域の力の大切さについて、検討・行動することの大切さを話し合うこともできました。

今回の特徴は、地元山形の聾学校から積極的に参加があり、協力をいただいたことです。また今回を機に地元の実行委員会とともに山形県の教育庁や障がい福祉課、聾学校を訪問し、より連携を深めることができたことも大きな成果であったと考えます。今後もこれらの連携の力を深める中でよりよいろう教育を築いていくために取り組んでいきましょう。

ここ山形の地で語り、学び合った私たちが、子どもたちの生き生きとした今と豊かな未来のために、それぞれの地域や学校において、当事者を中心としたさまざまな関係者、仲間とともに語り合い、繋がり、そして行動をしていきましょう。

来年の夏、富山湾の幸、立山連峰の幸に恵まれた富山にて、これらの取り組みの成果を持ち寄り、またお会いしましょう。

2017 年 8 月 27 日

第 29 回ろう教育を考える全国討論集会 in 山形 参加者一同